

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、名古屋大学環境工学部環境工学研究室) (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	シティハウス八事	階数	地上6F
建設地	名古屋市天白区弥生が岡201番1	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	174 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年9月 竣工	評価の実施日	2021年5月10日
敷地面積	2,114 m ²	作成者	
建築面積	893 m ²	確認日	2022年9月28日
延床面積	3,856 m ²	確認者	
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
= BEE1.3 ★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C 環境品質 G (0 to 100) vs 環境負荷 L (0 to 100)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 3.1 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1 Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.5	
LR 環境負荷低減性		LR のスコア = 3.3 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.6 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0	
3 設計上の配慮事項		総合 北側・西側の一部を道路に接する東西に長い敷地に計画された総戸数44戸の共同住宅新築プロジェクト。主アプローチとなる西側道路から奥まった位置に建物を配置し道路沿いに空地確保するほか、最上階の6階部分をセットバック住戸とするなど周辺環境への圧迫感を軽減することに努めた。 その他 省エネルギー・省CO₂を推進する為の堅実な手段を数多く採用する。	
Q1 室内環境 日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たす予定。 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される		Q2 サービス性能 都心での多彩な生活様式を受け入れるプランの提供とそれを支える安心・安全な構造計画。優れた断熱性能や遮音性能等、永く快適に住み続けることが出来る取り組み。 Q3 室外環境 (敷地内) 敷地の約10%以上を緑地として地域環境・景観へ寄与する。	
LR1 エネルギー 照明器具のLED化など省エネ・省CO₂を推進。すべての住戸に対して2面以上外部に面した平面計画とすることで、各住戸内での積極的な自然風の通り抜けを可能にし、自然エネルギーの利用に配慮した。		LR2 資源・マテリアル 節湯・節水器具の採用により環境負荷低減に寄与する。 LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO₂排出率が一般的な建物(参照値)と同等。 駐車場入口に待機スペースを確保。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

シティハウス八事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 2.2



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。